

1 左図 (B-1~5) の5か所で掘削を行い、うち3か所で部屋(空洞)が確認されました。それぞれの部屋を1~3とし、内部の状況や広さは以下のとおりです。

部屋1 幅 : 約4 m 長さ : 約15 m
高さ : 約3.5 m

部屋2 幅 : 約4 m 長さ : 約25 m
高さ : 約3.5 m



(北東方向)



(南西方向)



(北西方向)



(南東方向)

部屋3 幅 : 約3 m 長さ : 約4 m 高さ : 約3 m

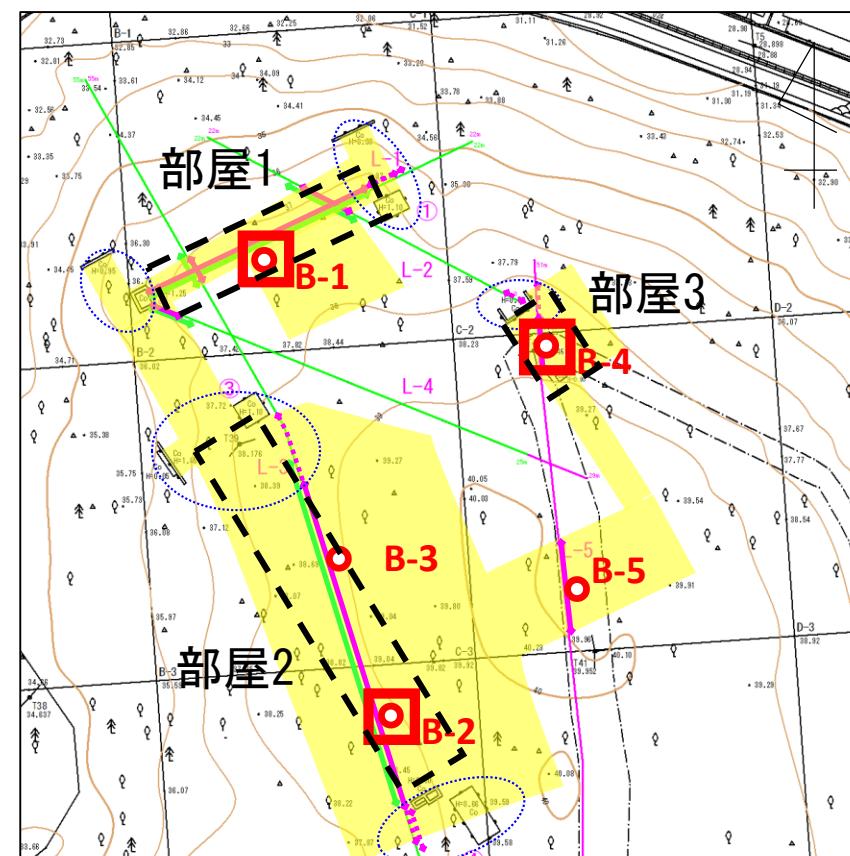


(北西方向)



(南東方向)

コンクリート構造物としては、概ね安定していることが確認されました。
今後も、調査を継続する予定です。



凡例

- 令和4年度のレーダー調査により、地下施設の可能性があるとした範囲
- ボーリング位置
- 坑内観察・内空調査
- 部屋が確認された範囲
- 埋め戻された可能性のある範囲

2 国立公文書館アジア歴史資料センターに所蔵されている「大和田通信隊(土支田分遣隊)」の引渡目録によると、地下送信機室、地下発電機室、半地下兵舎の3棟の地下施設が当該区域にあった旨の記載がありました(下図)。

